

● シリーズ 私の見た日本 Vol.210

私の北海道での生活

Eman Hussein Elsayed Touliabah (イマン フセイン エルセーエッド トゥリアバ)

1993年エジプト生まれ。2016年デルタ科学技術大学卒業。The British University in Egyptにてリサーチアシスタントを務め、また建築技術者として様々な建築事務所で経験を積む。2021年10月より、北海道大学工学院建築計画学研究室に英語コースの留学生として在籍している。



幼い頃から、親の仕事の都合で何度も引っ越しをし、異なる学校や家、そして多くの友人との出会いがありました。1990年代の出来事の多くは忘れてしまいましたが、20年以上連絡をとっていないにも関わらず、忘れたい幼馴染がいます。それは日本から来た友人です。私たちはカナダの小学校で出会い、私が再び転居するまでの約2年のみをともに過ごしましたが、私の日本文化への関心はその時から始まりました。もう一つの要因として、私が生まれる前に父が1年間日本に住んでいたことが挙げられます。私は父が日本から持って帰ってきたお土産に困まれて育ちました（後に、私は父が母のために買った浴衣を集めるまでになりました）。このように成長の過程で、アニメや漫画を含め、私は常に何らかのかたちで日本の影響を受けてきましたが、自分が日本を訪れ、そこで学ぶ機会を得るとは思ってもみませんでした。しかし、パンデミックの渦中にあった2020年、文部科学省奨学金の話聞き、昔からの夢を諦めるわけにはいかず、挑戦するしかないと決めました。私は日本の建築の美しさと歴史を敬服しており、それらを根源から直接学ぶことで建築のエンジニアとしてさらに前進している絶好の機会であると考えたのです。

無事に奨学金を受けた後、私は日本で滞在する場所を選ぶというハードルに直面しました。その時点で、東京と北海道の2カ所合格通知をもらったのです。どちらも素晴らしい場所ですが、雰囲気や景色が全く異なります。エジプトの首都カイロから来た私は、自然とつながり、地中海性の乾燥地域とは異なる気候を楽しむことができる場所を求めています。そのため北海道の札幌を選択しました。ここに1年近く住んだ後、これが私にとって完璧な選択であったことを100%確信しました。自然と身近に接し、都市生活と郊外生活を同時に経験できる機会を有することは私にとってほとんど夢のような状況です。札幌は特に冬の寒さと雪のため厳しい気候条件であることが知られていますが、私はここで初めての冬を満喫しました。

ここ札幌でも、私がいつも書籍で読んでいた建築のタイプについて実際に見て学ぶ機会がありました。北海道神宮などの歴史的な場所を訪れると、小道を歩きながら雄大なエネルギーをととても強く感じ、円山公園の小さな神社も興味深く探索しました。歴史の異なる時代の古い建物が札幌のいたるところにあり、それぞれが与える多様な雰囲気や情

感をみることは毎日の生活が冒険のようであり、さらに多くを発見したくなります。同時に、ここで建築がどのように進歩したか、人々の生活をより良くするために都市がどのように計画されたかを見ることは、まさに建築を学ぶことの醍醐味です。地下道とそれらが札幌の中心街の大部分とつながっている様子を初めて見たときには大変驚きました。そこにあるすべての商店や小さな道を発見しようとすることは、私の密かな楽しみです。私はエジプトの地理的な特徴により、好きなきに自然とつながる機会を持っていませんでしたが、札幌では、常に何らかのかたちで自然に囲まれていることに感銘を受けました。札幌には多くの魅力があり、ここに住むことは、頻りに転居を繰り返す1つの場所に落ち着くことのなかった私にとって恵まれた経験です。不自由なことはほとんどなく、アットホームな雰囲気を感じています。

この夏、北海道の美しさをもっと見つけたいと考え、友人たちとレンタカーを借りて北海道を周ることに決めました。私たちは美瑛に向かうことから旅を始め、最初の目的地は白金にある青い池の素晴らしい景色でした。そこは人工池ですが、季節によって色や美しさ変化します。それは魔法のような光景で

した。色はこの池が持つ特徴のひとつですが、他にも池の中央には枯れ木が立ち並び、魅惑的な印象を与えていました。私たちはソフトクリームを食べながら絶景を楽しみました。次の目的地は白金温泉街にある白髭の滝で、ここで夜を過ごしました。この滝と橋の上からの眺めはおとぎ話を超えるような体験でした。温泉旅館にて初めて温泉に入り、日本料理のディナーを食べて1日を締めくくるとは、私が切望していた経験であり、それが実現しながらずっと夢見心地でした。その日は、「温泉の後」という人生で最高の睡眠を味わうことができたのです。2日目は、富良野の有名な花畑があるファーム富田を訪れることにしました。道中、北海道の農村地域の建築物を見て、通り過ぎるだけで平和で落ち着いた気分になりました。勿論、ファーム富田ではラベンダー畑を楽しんだり、名物のラベンダーアイスクリームも食べたりしました。有名な北海道メロンも忘れていません（基本的に私たちは旅の間ずっと素晴らしいお菓子を食べてきたのでした）。その後、旭川市街へ直行する予定でしたが、道中で深山峠アートパークという掘り出し物を見つけました。そこは、たまたま訪れたにも関わらず、北海道の自然の真髄を感じられ

る田園にある隠れ家的で魅力的な場所でした。そこにあるトリックミュージアムも面白い経験であり、また屋台では日本の軽食もいくつか楽しむことができました。その後は、旭川に到着して街を散策し、北海道開拓時代に建てられたレンガ造りの倉庫でジンギスカンを食べて、忘れられない夜を締めくくったのです。

一方で、札幌での生活で私が最も気に入っているのは、自然や美しい建築物を楽しむために旅行したり、遠く離れた場所に行ったりする必要がないことです。自宅から5分歩けば北海道大学のキャンパスに行くことができます。大学には、ポプラ並木、クラーク像、札幌農学校第2農場など、文化的に重要で価値のあるものと位置づけられている様々な場所があります。大きなハルニレ（エルム）やイチョウ、ポプラの木がいたるところにあり、北海道大学は「エルムキャンパス」と呼ばれています。歴史的建造物の大部分には欧風のデザインが用いられており、訪問者に人気があります。写真を撮ったり、風景を楽しむために散歩したりする人でいつも賑わっています。そこで過ごす学生として、私はキャンパスで退屈になったことは一度もありません。

ん。授業の後、または授業の合間にでも、常に見たり訪れたりすることがあるのです。友人たちは私がいつも散歩しているのを見かけていると言います。時の流れを感じる歴史的建造物とそこに紡がれる物語。賑やかな都心にありながら、キャンパス内の大野池に座っているといつでもリラックスして鳥の声を聞いたり、池のカモを見たりできる自然の穏やかな場所。私の1日の最高の瞬間のひとつは、イチョウ並木を歩くことです。この380mの道には巨大なイチョウの木が並んでおり、毎年10月末から11月にかけて、青々とした緑の葉が見事な黄色に染まります。1年中いつでも、並木の光景は息をのむほど素晴らしいのです。私の研究は大学のキャンパス計画をテーマにしているので、この壮大なキャンパスにいることに感謝すると同時に、多くのことを発見し、経験し、日本全国を訪問することで、ここでの生活を最大限に充実させたいと考えています。毎日ここには新たな冒険を始めるための機会があるのです。

(翻訳：北海道大学工学研究院 建築都市部門 空間デザイン 准教授 野村理恵)



札幌のまちなみ



白金の青い池



ファーム富田



白髭の滝



深山峠アートパーク



旭川レンガ倉庫内



秋のはじまりが感じられるキャンパスの散策



札幌農学校第2農場



北海道大学内の大野池



巨大なイチョウ並木